

## アメリカ滞在記

理学系研究科 物理学専攻 博士課程 2年

曾弘博

2016/3/25

2016年1月16日から3月11日まで Boston University に滞在し、生物物理についての研究を行った。また、3月14日から3月18日まで、Baltimore で開催された American Physical Society (APS) March Meeting に参加した。

Boston University では Prof. Kirill Korolev のグループに滞在した。Korolev グループでは、進化や生態といった生物学の問題を、物理等の手法を用いて理論的に研究している。扱う系は微生物生態系からウイルス、癌細胞と幅広く、実験系の研究室との共同研究も盛んに行われている。私はここで、range expansion(生物がそれまでその種がいなかった領域に生息域を広げる過程のこと)に伴う生態/進化過程について、理論的な研究を行った。2ヶ月という期間はやはり短く、期間内にプロジェクトを完遂することはできなかったが、帰国後も議論を続けて論文化を目指す方針となった。

Boston で最も印象に残ったのは、「人のつながり」という意味での研究環境の良さである。MIT や Harvard といった大規模な研究大学が近隣に数多く存在し、それらの間を徒歩や公共交通機関で容易に行き来ができることもあって、大学をまたいだ研究交流が非常に盛んであったように感じられた。小規模な研究会や毎週のセミナーなどでも、近隣の様々な大学の研究者や学生が参加し、活発な議論が行われていた。

また、日米の違いという点では、大学院生の立場の違いが最も大きく感じられた。何人もの学生と話す機会があったが、やはり「日本では多くの場合、大学院生は給料をもらえず、学費を払う立場だ」という話には皆一様に驚いていた。

APS March Meeting では自らの日本での研究成果の口頭発表を行った。この会議は1万件近くの発表(<http://www.aps.org/meetings/march/> 参照)が行われる非常に大規模なものであり、アメリカのみならず、ヨーロッパや中国、インドなど世界中から多くの参加者が集まっていたのが印象的であった。

自らの発表以外では、主に生物(特に生態や進化)関連のセッションに出席し、実験/理論ともに非常に刺激的な最新の研究についての情報を得ることができた。

今回の、international かつ interdisciplinary な経験は、今後の研究活動にとって非常に有意義なものであった。このような機会を与えてくださった ALPS 関係者の皆様、受け入れ先メンバーの皆様に感謝の言葉を申し上げたい。